

2040年 4つの課題と大学の可能性

2015年、女性活躍推進法が制定されて久しい。男女共同参画社会の実現に向け、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」ことを目標として、企業のみならず社会全体に向けた政策的な働きかけもなされているものの、国際社会を見れば、日本の女性の働きやすさはOECD主要国の中でも相対的に依然として極めて低い結果のまま。特に課題として指摘されるのが、今まさに人材の活躍が叫ばれている理系分野における、「ジェンダーの不均衡」という現実だ。デジタルをはじめ、今最も活躍の場が広がる理系分野において、2040年、女性が真に生き生きと活躍し能力を発揮するためには、今一度意識を高めていく必要がある。



theme 01 労働市場におけるジェンダー不均衡

女性の活躍機会増大の推進

ジェンダーギャップの解消

キャリアのマルチステージ化

ダイバーシティ&インクルージョンの推進 長寿社会

少子化

労働生産性の向上

総人口減少

過疎化・都市消滅

都市への人口集中

GDPの減少 Well-beingの実現

ポストSDGsの推進

イノベーションニーズの拡大

地方経済の復活

AI等新たな技術の進化 デジタル・データ活用の進展

人材獲得競争の激化

気候変動

日本の長期的経済の低迷

地球温暖化

環境破壊

脱炭素経営への転換

ESG投資の拡大

新興国の経済発展

資源(ヒト・モノ・カネ)の国際流動性向上

成長分野における日本の存在感希薄

グリーン成長戦略推進

theme 03 地球環境の危機

2023年の夏は酷暑であった。地球規模で見た温暖化の進捗は、様々な地域で水害や山火事等、想定外の規模の災害を引き起こし、地球沸騰時代というキーワードも登場した。国際社会はこうした状況に歯止めをかけるべく、企業や自治体を中心に脱炭素へのシフトを進めている。日本も2050年までにカーボンニュートラルを実現することに経済成長を重ねるシナリオ「グリーン成長戦略」を描いており、投資の世界では財務リターンを前提としたESG投資が当たり前になりつつある。一方で急務なのが人材育成だ。デジタルに並ぶグリーンという新たな成長分野をけん引する人材を、どのように育てていくのが継続的な課題となりそうである。



日本の国際競争力低下

theme 04

グローバル人材不足

少子高齢化が進行する日本。労働人口の減少はGDPの減少に直結し、もともとイノベーション不足が叫ばれるなか、新課程の探究やアントレプレナーシップ教育が初等中等教育で開始されたとはいえ、競争力低下に対する即効性ある処方箋にはなりにくいのが現状だ。特に成長分野を中心に、若手研究者の厚みをどのように拡大していくのが喫緊の課題である。全国に数多ある大学がそれぞれに強みある研究や社会価値創出を最大化していくことができなければ、あるいは大学を中核とした地域の独自性創出を担うことができなければ、国際競争力以前に地域競争力が今以上に損なわれ、大学を含めた地域衰退にもつながりかねない。

